

## 道路に係る要望活動

### 1月11日(木)一宮西港道路の早期整備を要望

要望先: 高橋国土交通大臣政務官、森国土交通省技監、石川国土交通省道路局長 等

訪問者: 愛知県、一宮市、津島市、稲沢市等沿線自治体、名古屋商工会議所、中経連 等

<主な要望内容>

一宮西港道路は、東海北陸自動車道一宮JCT付近～愛知県弥富市(伊勢湾岸自動車道)間に計画されている延長約30kmの地域高規格道路である。沿線地域の渋滞緩和や災害時の緊急避難道路としての役割が期待されるとともに、東海北陸自動車道から名古屋港や中部国際空港へのアクセスが容易になるため、物流や観光促進にも寄与することが期待されている。

中経連は、中西愛知県副知事をはじめ沿線自治体の首長等とともに、高橋国土交通大臣政務官をはじめ国土交通省幹部等に対し、一宮西港道路の早期整備を要望した。

### 1月22日(月)西知多道路の早期整備を要望

要望先: 高橋国土交通大臣政務官、森国土交通省技監、石川国土交通省道路局長 等

訪問者: 愛知県、名古屋市、沿線自治体、名古屋港管理組合、中部国際空港(株)、名古屋商工会議所、中経連 等



高橋国土交通大臣政務官(前列右から4人目)に要望書を手渡しする訪問者たち

<主な要望内容>

西知多道路は、名古屋港の物流機能強化の他、中部国際空港へのアクセス道路として物流や観光促進に寄与するとともに、大規模災害時の沿線へ

の緊急搬送路としての役割を果たすことも期待されている。昨年度には、伊勢湾岸自動車道と直結する東海JCT部が国主体で、南側の青海IC～常滑JCT部が愛知県主体で事業化された。

栗原中経連常務理事は、中西愛知県副知事等とともに、高橋国土交通大臣政務官をはじめ国土交通省幹部等に対し、今後さらに国の予算が確保され、西知多道路の早期整備が進められるよう要望した。

### 1月25日(木)名豊道路の早期全線整備を要望

要望先: 秋本国土交通大臣政務官、毛利国土交通事務次官 等

訪問者: 愛知県、蒲郡市、豊川市、豊橋市等沿線自治体、関係団体、中経連 等



毛利国土交通事務次官(中央)に要望書を手渡しする訪問者たち

<主な要望内容>

名豊道路は、名古屋市と豊橋市を結ぶ延長72.7kmの大規模バイパスで、知立、岡崎、蒲郡、豊橋、豊橋東バイパスによって構成される地域高規格道路である。現在、全線で唯一ミッシングリンクとなっている蒲郡バイパス内にある9.1kmの未整備区間については、物流の効率化や企業誘致、さらに観光促進等の観点から早期開通が期待されている。

栗原中経連常務理事は、石原愛知県副知事をはじめ、沿線自治体の首長等とともに、秋本国土交通大臣政務官をはじめ、国土交通省幹部等に対し、蒲郡バイパスをはじめとした早期全線整備を要望した。

### 1月29日(月)名古屋環状2号線の早期全線整備を要望

要望先: 高橋国土交通大臣政務官、森国土交通省技監、石川国土交通省道路局長 等

訪問者：名古屋市、愛知県、飛島村、名古屋港管理組合、名古屋商工会議所、中経連 等

<主な要望内容>

名古屋環状2号線は、未整備区間の西南部・南部区間が整備されると、岐阜県方面から名古屋港へのアクセスが向上し、物流効率化や資本ストック効果、観光促進に寄与するとともに、南海トラフ地震など大規模災害時の緊急搬送路としての役割が見込まれている。昨年7月には2020年度の開通予定が公表され、周辺地域では早期整備への期待が一層高まりつつある。

中経連は、堀場名古屋市副市長、河野愛知県建設部長等とともに、高橋国土交通大臣政務官をはじめ国土交通省幹部等に対し、一日も早い早期全線整備を要望した。

(社会基盤部 山口 智)

## 常任政策議員会議

1月23日(火)、中経連は「常任政策議員会議」を名古屋市内にて開催し、2018年度事業計画(事務局案)について審議した。



事務局から事業計画案の説明の後、意見交換を行った。参加者からは、「少子高齢化の進展により、様々な分野で人材の確保が大変困難になっている」「名古屋・愛知中心の連携ではなく、例えば三重の中南勢や岐阜、静岡の伊豆からの視点で中部圏を捉え、地域連携を進めるうえで足りないところを見つけてはどうか」「IoT、AIは、大企業では取り組んでも中小企業はなかなか手が回らない」「女性や高齢者の活用など、中小企業にとっても取り組むことのできる内容にしてほしい」「製造業、運送、倉庫の各分野が一体となった効率的な物流体制の

検討が重要」など、中経連の活動に積極的に参加する仕組みについての意見があがり、活発な討議が行われた。

なお、本会議で出された意見の反映など、それぞれの案の取りまとめについては、豊田会長および議長を務めた中西副会長に一任され、今後、2月度正・副会長会での議論を経て、3月度理事会・総合政策会議に諮ることとした。

(総務部 亀井 勝彦)

## 人材育成に係る要望活動

1月26日(金)、中経連の人材育成委員長を務める中村副会長が、丹羽文部科学省副大臣を訪問し、12月4日に公表した「中部圏の未来を支える人材の育成」の提言書を手渡し、若手社員の基礎学力や社会人基礎力の不足感に対して、初等中等教育段階における基礎能力の引き上げの必要性、教員の教える力の向上と環境整備、教育改革の確実な実行について要望を行った。

提言書をまとめた中村副会長は、人材育成の重要性と人材への投資に対する政府の支援を求めた。

丹羽副大臣からは、「初等中等の早い段階からの教育は重要であり、教員の教える力の向上も大きな課題である」などのコメントをいただいた。



丹羽文部科学省副大臣に提言書の説明をする中村副会長

引き続き、文部科学省や教育委員会などを訪問し、人材育成に関する経済界の意見を訴求するとともに、提言実現に向けた産学官の連携活動を行っていく。

(企画部 鈴木 裕彦)

## 定例記者会見

2月5日(月)、中経連は総合政策会議終了後、豊田会長の定例記者会見を行った。

はじめに、豊田会長は今国会および今春季労使交渉において議論が進む「働き方改革」について触れ、中部圏経済が堅調な今が働き方改革や生産性向上を進める好機との考えを示した。

次に、中部圏の将来像について、自治体、国の出先機関から発言を得た「第14回中央日本交流・連携サミット」(1月30日実施)について報告し、魅力ある地域づくりを牽引するよう改めて行政に求めた。さらに、2月22日に開催予定の「東海地域経済懇談会」の出席者や発言テーマを案内し、取材を呼びかけた。

最後に、経済委員会が取りまとめた提言書「中部圏5.0の提唱～中部圏におけるSociety5.0の姿と実現に必要な努力～」について、Society5.0の理

解を助け、認知を広めるものであり、中経連各委員会がこれから取り組むべきことのベースになるものと紹介した(本誌2～4ページ参照)。

その後、提言書について経済委員会の委員長を務める水野副会長が、Society5.0が実現した中部圏の新たな社会像は、これまでの社会の滑らかな延長線上に描かれず、従来の資産や技術、成功モデルが必ずしも有利に働かない可能性があるとのキーメッセージを訴え、現時点から意識的な努力や能動的な行動が求められると呼びかけた。



(総務部 奥田 知子)

# MEETS TONO

2018.3/16 [FRI] - 17 [SAT] - 18 [SUN]  
@ NAGOYA TV TOWER

美濃の地酒と美濃焼

2回目の開催! ナゴヤでカンパイ 名古屋テレビ塔下

**東濃10蔵の地酒を飲み比べ、美濃焼の器を選んで楽しむ3日間。  
名古屋テレビ塔でカンパイしましょう!**



岐阜県・東濃10蔵の地酒を飲み比べ、よりすぐりの窯元や作家がつくる美濃焼の酒器も選んで楽しめるイベントが名古屋テレビ塔下「タワースクエア」で開催されます。各蔵自慢の地酒が集合! おつまみも会場演出も東濃づくしの内容です。おいしくほろ酔いながら、東濃の魅力を感じてみませんか。

前売りチケット販売や詳しい情報はホームページへ [www.meets-ono.com](http://www.meets-ono.com)